Kyot.Prot.N.53/2022

2022 年 6 月 30 日

カトリック京都司教区
京都南部地区共同宣教司牧ブロック
担当司祭・信徒・修道者のみなさま

カトリック京都司教
＋パウロ大塚喜直

京都南部地区　小教区適正配置指針の見直しについて

経　緯

・わたしは、2009 年 12 月 10 日の教区宣教司牧評議会で、「小教区適正配置についての方針」を発表し、教区の将来を見据えて、より一層の福音宣教の推進のため力を結集し、「共同宣教司牧」の推進とともに、「小教区の適正配置」についても積極的に選択していくことにしました。

・そして、京都南部地区の小教区適正配置については、2010 年 11 月 27 日に、ブロックの再編を行いました。

京都南部地区　ブロック
「洛北ブロック」：衣笠（宇津・山国）、高野、小山、西陣、北白川
「洛東ブロック」：河原町、伏見、山科、桃山、
「京丹ブロック」：西院、桂、丹波、長岡、九条
「山城ブロック」：田辺、宇治、精華、青谷、八幡

・さらに、2015 年に「京都南部地区適正配置について－京都南部地区 4 ブロックの小教区統合計画－」を発表し、2016 年からの 10 年をかけて、ブロック内の小教区を統合して、各ブロックを１つの小教区にすることを目指しました。

・小教区統合計画は、5 年が終わった時点（2021 年 3 月）で中間評価を行う予定でしたが、コロナ禍により、これを 1 年延期し、2022 年 5 月に 4 ブロックの評価が提出されました。

1．京都教区の共同宣教司牧、小教区適正配置の確認

教会の使命は、神の国の建設、神のみことばの宣言、社会との連帯、福音の証しです。京都教区は共同宣教司牧を通して、現代社会において「出向いていく教会」として福音宣教の使命を果たそうとしています。小教区適正配置は、「福音宣教をしていく共同体」になるために、教区の将来を見据えて、どこに福音宣教の拠点を置くか考え、その体制に移行していくことです。

その際、重要なポイントは、小教区およびブロックの共同体作りと、地域・社会に向かって福音宣教するための取り組みです。そのためには、ブロック･小教区の過去の経緯、地域性、現在の信徒の状況、移動のための交通の便、派遣する司祭・司牧者の可能性、信徒の高齢化、信徒数の減少などを考慮に入れます。

2．京都教区の適正配置の課題

司教顧問会は、4ブロックの中間報告をもとに、南部地区司祭団の意見も聴取し、現時点での京都教区の適正配置の課題を確認しました。

（1） 自己の所属する小教区の主日の典礼(ミサ・集会祭儀)に参加する信徒の権利を保障する。
（2） 小教区共同体の絆を守り、交流を深める。
（3） 信徒の生涯養成、滞日外国人の司牧、特に青少年の養成と新しい信者の受け入れを強化する。
（4） 部活動などにおいて、ブロックとしての協力体制を推進する。
（5） 小教区の建物は、教区と連携、相談しながら、小教区ごとに維持管理する。

3．2015年京都南部地区小教区適正配置指針の見直し

① **4ブロックが10年をかけて1つの小教区になる統合計画を撤廃します**。今後は、上記の課題に取り組む中で、適正配置の必要性を検討していきます。
② すべての小教区での主日の典礼は、今後とも可能なかぎり継続するべきであると判断し、**「主聖堂」という考え方を撤廃します。**
したがって、洛北ブロックの衣笠教会、洛東ブロックの河原町教会、山城ブロックの田辺教会、京丹ブロックの桂教会は、主聖堂ではなく、他のすべての小教区聖堂と同じです。
③ 小教区の建物の維持管理については、小規模な維持管理・修繕を除いては、今後も教区と連絡・連携を取りながら進めていきます。
④ 司祭・司牧者の居住スペースは、教区が必要に応じて検討します。

最後に

以上、京都南部の司祭団と信徒の皆様には、時間を掛けて慎重に検討してくださったことに対し、心から感謝申し上げます。コロナ禍が継続するなか、信徒・司祭の高齢化と減少傾向は今後も否めず、教区としてこれらの課題のために検討を続けて行きます。どうぞ、皆さまのご理解とご協力をお願いします。

以上